

推奨部門 屋外広告サイン

Subway entrance signage at Gofukumachi Business Center
呉服町ビジネスセンターの地下鉄出入口サイン
 博多区上呉服町10番10号

用途:サイン
 完成年月:2003(平成15)年10月/所有者:住友信託銀行(株)、福岡リート投資法人
 設計者:MICHEAL GRAVES&ASSOCIATES (株)INA新建築研究所九州支店
 施工者:(株)竹中工務店九州支店/関係者:福岡地所(株)



深いブルーの格子の上に鎮座する白く巨大な「SUBWAY」の文字、これも地下鉄の出入口である。コントラストのきいた強烈なインパクトがある。存在感や華やかさは感じさせこそすれ、奇異な印象は受けない。背景となっている呉服町ビジネスセンタービルのアイテールの表現を受け継いでいるからである。周辺の景観と響きあい、かつては博多の商いの中心地であった地域の新しいランドマークとなっている。

街角には広告やサインがあふれている。そしてそのどれかが私たちにメッセージを送っている。時にそのメッセージが強すぎて街並みと不協和音を奏でていることも少なくない。広告やサインは常に多くの人々が目にする、景観の一部である。これらが景観に彩りを添え、都市の魅力を高めているならば福岡の街はもっと豊かな表情を見せてくれることであろう。(審査委員 大場 美徳)



FUKUOKA Urban Beautification Award 2005 特別表彰 Special Commendation Review

違反広告物の排除は、大都市がかかえる深刻な問題のひとつである。福岡市も、中洲周辺や交通拠点周辺、幹線道路沿いに集中するピンクちらしや貼り紙、捨て看板などに悩まされてきた。そこで、ピンクちらし等の根絶に関する条例や、屋外広告物条例に基づく集中的な対策によって、天神など都心部における違反広告物は目に見えて減少している。いたちごっこ、と言われた撤去作業が功を奏してきた陰には、地道な活動を続けている「路上違反広告物追放推進団体」によるボランティア活動があることを見落としてはならない。景観法の制定によって違反を許さない環境ができてきた。しかし、最後は市民の意志の強さが景観を守るといふことを肝に銘じておきたい。

(審査委員 佐藤 優)



概要/平成11年に創設された「路上違反広告物追放登録員制度」に登録し、区長から簡易除却権限の一部を委任された市民や企業などの推進団体が、貼り紙や貼り札、立看板などの違反広告物を除却するボランティア活動。280団体5,400人(H16未現在)が登録し、平成16年度は10万枚を超える違反広告物を撤去している。

Opposition Group's Activity for the Removal of Illegally Posted Flyers
路上違反広告物追放推進団体による違反広告物撤去活動

主催:路上違反広告物追放推進団体



Enjoy Space Daimyo
エンジョイスペース大名

主催:緒方 徳重



概要/大名の紺屋町通りに建つ築130年以上経過した古い町家を平成7年より開放し、若者を中心とするあらゆる層の人々に、自分の個性を自由に発表できる場を提供している。個展や演劇など多岐に渡る催しが年間50程度行われ、大名らしい賑わい創出の場となっている。

日頃の乾燥と都市型水害に悩まされ、植物の影も薄く、無関心を装う都会には物理的にも心理的にも砂漠のイメージが付きまとう。砂漠に関わる課題は、毎年九州と四国を合わせた面積に匹敵する約600万ヘクタールに及び実際の砂漠の拡大と、ヒートアイランド現象に代表される都市の砂漠化という二つの観点から重要である。今日まで多くの市民にその活動の機会を提供し、交流を通じて人々の間に潤いと街の賑わいを提供してきた、エンジョイスペース大名はまさに都市砂漠に浮かぶオアシスである。旅人はここで憩い、収穫された創造性という果実を糧に次の砂漠へと旅立つのであろう。水脈が枯れないことを祈る。

(審査委員 岡本 均)

Muromi Riverside Green Area

室見川緑地

早良区小田部他

用途:公園

完成年月:1975(昭和50)年(開園)

所有者:福岡市(都市整備局)

遠くに百道のビル群や脊振山系をのぞむ室見川緑地は、休日ともなると水辺で憩う人たちが賑わいます。

魚釣りや貝掘りをする人、サイクリングやジョギングに汗流す人、パーベキューの家族連れや川遊びに夢中な子供たちなどは、対岸から眺めるだけでも楽しいもの。また、整備された河川に点在する自然の砂州や葦の生い茂った中洲は、野鳥や魚の隠れ家とともに、人にも優しい空間を演出してくれます。

この緑地が整備されて30年。思い思いの楽しみ方で、人と自然が作り上げた景観です。

(審査委員 中村 敏子)



Fukuoka City Subway Nanakuma Line
福岡市営地下鉄七隈線

用途:鉄道

完成年月:2005(平成17)年2月

所有者:福岡市(交通局)

設計者:社団法人日本サインデザイン協会 株式会社葉アサイン事務所 株式会社匠建築研究所 ユニオン設計株式会社 株式会社日建設 株式会社マトリックス 株式会社坂本建築事務所 株式会社中山建築設計事務所 株式会社太陽設計 株式会社木村建築研究所 有限会社回工房 株式会社未永建築プランナー 株式会社外本建築設計事務所 有限会社大部設計事務所 株式会社長澤建築設計事務所 株式会社西島建築設計事務所 株式会社三島設計事務所 株式会社アトリエ重画九州電気コンサルタント株式会社 株式会社ジーエータップ 表示灯株式会社福岡支社 株式会社ゼン環境設計

施工者:大林・大日本・松本・志多建設工事共同企業体 大成・鉄建・竹中土木・浅沼建設工事共同企業体 間・西武建設工事共同企業体 西松・松村・梅林建設工事共同企業体 株式会社ビーエス三菱九州支店 鹿島・三井住友・松尾 建設工事共同企業体 奥村・さとう・飯田建設工事共同企業体 飛島・ナカノフドー・九州総合建設工事共同企業体 鴻池・大豊建設工事共同企業体 清水・福田・森本建設工事共同企業体 戸田・アイサワ・澄男建設工事共同企業体 前田・地崎・矢作建設工事共同企業体 東急・青木あすなろ・クボタ・村本・才田 建設工事共同企業体 三井住友・りんかい日産・西光建設工事共同企業体 銭高・白石建設工事共同企業体 フジタ・古賀建設工事共同企業体 前田・佐藤工業・中村建設工事共同企業体 柿原・有澤建設工事共同企業体 正京建設株式会社 株式会社西日本電機製作所 日本信号株式会社九州支店 三菱電機株式会社九州支店 株式会社日立製作所九州支店 太陽緑化建設株式会社



撮影:井上 啓

2005年2月、長く交通問題から取り残されていた福岡市西南部から天神の街へ一気に風穴が開いた。街角に異空間を出現させたガラス張りの入り口に飛び込むと、すぐに都心への序曲が響き出す。そして全駅コンコースに共通の明るいユニバーサルデザインと、駅ごとの個性を演出するユニークな壁の味わいに、イベント気分は盛り上がる。実はこの七隈線の設計が始まったのは10年前。折しもバブルが崩壊、予期せぬ過酷な予算削減との戦いが待ち受けていた。この難題を、福岡方式とも呼ぶべき、あらゆる部門が連携してサイナーが継続的に責任を持つ「トータルデザイン」によってみごと克服した。

何となくワクワクしてしまうのにはちゃんと理由(わけ)があるのである。(審査委員 西山 徳明)